

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

1. テーマ

生徒の学びを支える授業と学級経営の工夫
－分かりやすく見通しが立つ授業と生徒に寄り添った指導の推進－

2. 問題意識・提案背景

本区では、現在区立小中学校の7割近くで特別支援教室を設置しているが、教員の特別支援教育への理解や指導力の向上は喫緊の課題ではあり、いずれの生徒にとっても適切な学習活動が保障されるように、教員が生徒の実態に応じた指導方法を構築することが重要であると考えます。本事業を活用することで、発達障害支援アドバイザーが直接学校現場で指導したり、専門家と密に連携し適切な助言をもらったりすることにより、特別支援教育に対する教員全体の意識が向上し個に応じた指導の充実と障がいに対するより専門的な指導法の確立が可能になると考えます。

3. 指定校について

（中学校の場合）

指定校名：東京都板橋区立志村第三中学校										
学級数及び児童生徒数										
	第1学年		第2学年		第3学年					
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数				
通常の学級	141	5	164	5	172	5				
特別支援学級	0	0	0	0	0	0				
通級による指導の対象者数	2	2	1	1	1	1				
教職員数										
校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教員	その他	計	
1	1	23	1	3	1	2	0	1	1	34

4. 指定校における取組概要

①目的・目標
一人一人のニーズに応じた指導を実践するために、環境整備を充実させながら、学級内に好ましい人間関係を築くとともに、共に学ぶ姿勢を身に付けさせる。

②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒を含む全ての生徒が理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の改善

- ・教師は課題の提示方法、発問の仕方等を工夫し、生徒にとって1時間の見通しがもてる授業となるよう指導方法を工夫改善する。
- ・一斉画一型の授業形態ではなく習熟度別の学習ができるように環境を整える。また、単元によって効果的な場面では積極的に問題解決型学習・協同学習を取り入れる。
- ・板橋区教育支援センターと連携し、ICT機器を学習指導に取り入れることで、生徒に学習内容に対する興味・関心をもたせるとともに、学習内容についての理解を深めさせる。

③放課後補充指導等の学習面での配慮や視覚的・聴覚的な刺激の軽減等の行動面での配慮による指導方法の工夫

5. 主な成果

平成26年度本事業の指定を受けた志村第三中学校は一年間の研究を通して、教員一人一人の発達障がいに対する理解が深まり、授業における支援の工夫への意識が高まってきた。発達障がいの可能性のある生徒を全教員で把握することで、学校全体での特別支援教育に対する意識改革を図り、教員一人一人が生徒の困難さを把握し、それに対する支援の手立てを構築するための組織的な取組を行ってきた。また、発達障害支援アドバイザーを活用し、専門的な助言を受けることで生徒の困難さへの理解や指導方法の工夫・改善を図ることができた。教員一人一人の発達障がいに対する理解が深まり、授業における支援の工夫への意識が高まってきた。発達障がいの可能性のある生徒を早期に発見し、適切な支援方法を研究していくことは、障がいのあるなしにかかわらず、全生徒の分かりやすさにつながり、生徒一人一人の自己実現を図ることになるという共通認識・共通理解を得ることができ、日々の授業実践に生かされたことが大きな成果である。

6. 今後の課題と対応

発達障がいの可能性のある生徒のみならず、すべての生徒が理解しやすいよう配慮した授業改善を行うこと、一人一人の教育的ニーズに応じた個別指導を工夫すること、様々なアセスメントを活用し適切な実態把握を行うことで可能な限りの早期支援を行うことを来年度の課題とし、生徒に対する指導方法の改善、早期支援の在り方についてさらに研究を深めていくことが課題である。

また、本研究の成果を平成28年2月2日（火）に報告会を実施し、区内外に周知を図る。

7. 問い合わせ先

組織名：

- ①所属・職名 板橋区教育委員会事務局指導室・統括指導主事
- ②氏名 氣田 眞由美
- ③電話番号 03-3579-2643
- ④FAX番号 03-3579-2649
- ⑤メールアドレス Kida.mayumi@city.itabashi.tokyo.jp
- ⑥所在地 東京都板橋区板橋二丁目66番1号